

平成 31 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>RPA (Robotic Process Automation) が、幅広い業務で導入されるようになってきている。企業の基幹業務を支える情報システムは、改変するために大きな投資を要するのに対して、RPA は比較的少額の投資で、従来、人手で行っていた事務作業の効率を向上させることが可能である。そのため、RPA を有効に活用することによって、事務処理コストの低減が実現できる。一方、導入が容易なので、十分な検討を行わずに適用した場合には、業務処理の誤りや停止などの影響を及ぼす可能性がある。部門ごとに RPA が導入された場合には、全体として効率の良い活用が行われないという懸念もある。</p> <p>本問では、RPA の開発と導入に関わるメリットとリスクを考えて、効果的な監査を行える能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	類似作業の差異を考慮しないで共通化することにより、業務に支障が生じる。	
設問 2	処理速度が速くなるので、関連システムの負荷が増大して、レスポンスが低下する。	
設問 3	ロボットの使用する ID とパスワードをアクセス制限された環境で保管していること	
設問 4	関連システム改修時に、RPA システムの管理部署に連絡し影響調査をする規定があること	
設問 5	ロボットの稼働回数・稼働時間などのデータを分析し、費用対効果を検証すること	

問 2

出題趣旨	
<p>情報システムを活用している企業の中には、システム部門の体制が必ずしも十分でない場合がある。そのような企業が、情報システムの刷新を企画し、外部の企業に開発を委託する場合に、委託先企業との間での役割分担や、システムオーナー・利用部門との要件やスケジュールなどの調整が十分に行われず、いわゆる“丸投げ”の状態になる場合がある。</p> <p>そのような企業のシステム開発計画を監査する場合に、システム監査人は、発注者側が発注者責任を果たすことができる体制になっているかどうかを確認する必要がある。</p> <p>本問では、システム監査人として、システム開発におけるリスクを見極め、必要なコントロールを考え、適切な監査ポイント、監査手続を設定する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	重要度の設定の確認だけではプロジェクトとしての優先順位が検討されているかどうか確認できないから	
設問 2	利用部門の代表者の要件定義書の作成への十分な関与を確認する必要があるから	
設問 3	委託先が進捗状況を正確に報告しているかどうかを A 社として確認する必要があるから	
設問 4	ユーザ受入テストの役割分担、体制について明確に定められていること	
設問 5	開発着手後の追加・変更の要求に対応する際の採用条件を明確にし、利用部門と合意すること	

問3

出題趣旨	
<p>長期間使用されたシステムを、オープン系技術を利用して短期間に低コストで再構築しようとする企業が近年増えている。しかしながら、長年保守を繰り返してきたシステムは、いわゆるブラックボックス化が進んでいることが多く、再構築後の本番稼働が遅れる、コストが増加する、といったケースも発生している。</p> <p>本問では、システム監査人として、基幹システムのオープン化を題材として、長年保守を繰り返してきたシステムを再構築するプロジェクトの計画段階において想定されるリスク（品質未達、コスト過大、プロジェクト遅延など）を識別する能力と、システム監査のポイントについての理解を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	未使用の機能・画面・帳票について、再構築対象範囲からの除外を検討していること	
設問2	プログラム変換ツールのトライアル対象範囲が狭過ぎたり、偏ったりしていないこと	
設問3	設計書が最新ではないので、現新比較テストで不一致発生時に、原因解析に時間を要するから	
設問4	設計工程にも利用部門が参画し、プロトタイプなどで早期に操作性を確認してもらう。	
設問5	要件定義書や設計書を整理し、最新の要件や仕様を反映する計画が存在すること	